

木の魅力に親しめる場の設計のためのパターン集の提案

森と木のクリエイター科 木造建築専攻 岩本 悠汰

1. 研究の背景と目的

本研究の背景として、私は木造建築の軒下の縁側空間で過ごす体験や、木材の経年による色味の変化などの木材の様々な魅力を感じ、息子にも木の魅力を感じて欲しいと感じたことが始まりである。

どうして私が木の魅力に惹かれるのか、これまでの人生を振り返ると、私の生家では、和室があり、木製の建具があり、土壁があり、古来よりの木造住宅の要素が備わっていた。私にはそうした経験があったからこそ、改めて木造建築や木材の様々な魅力を大人になり再認識出来たように感じる。

本研究の目的は、木の魅力に親しめる場の設計のためにパターンシートを作成しその効果を検証する。さらに既存建物の利活用提案において、パターンシートを用いた木の魅力に親しめる場の提案を行う。

2. 木の魅力を伝える岐阜県の取り組み

岐阜県は森林率全国第 2 位と森に馴染みの深い地域である。2013 年には「ぎふ木育」が定められ、その中で図 1 の通り段階的かつ継続的な取組体系が示された。本研究においてもこの取組体系のステップ 1、2 を木の魅力に親しめる場の考えの参考に施設を選定しパターンを抽出する。

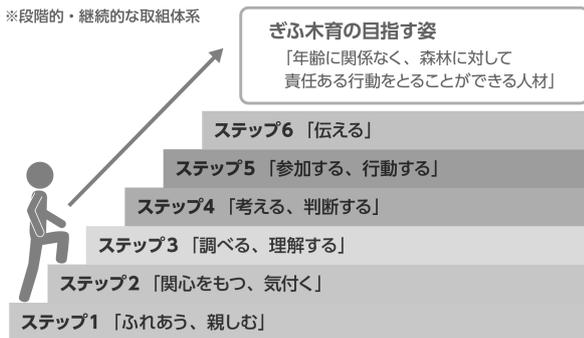


図 1 りふ木育の取組体系
(出典:岐阜県「ぎふ木育 30 年ビジョン」 2013)

3. 木育に関わる施設の調査

岐阜県では「木育に気軽に触れ合える独自の場所として「ぎふ木遊館」「ぎふ木遊館サテライト」「morinos」「ぎふ木育ひろば」が設置されている。また県外においても木育体験施設や児童福祉施設、放課後児童クラブなど子供達が木に触れ合える場がある。それら表 1 の計 20 箇所の施設の視察を実施し、パターン抽出を行なった。

表 1 視察を行なった施設の一覧

所在地	施設名
1 岐阜県各務原市	KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE
2 愛知県一宮市	つなぐの森 ハリブー
3 岐阜県岐阜市	ぎふ木遊館
4 岐阜県中津川市	なかつがわ 森の木遊館
5 岐阜県美濃市	morinos
6 岐阜県中津川市	ひとまちテラス
7 福井県池田町	あそびハウス こどもと森
8 福井県池田町	おもちゃハウス こどもと木
9 石川県白山市	晴るる。ごはんとあそび
10 岐阜県美濃市	美濃市健康文化交流センター
11 岐阜県関市	わかかさ児童センター
12 岐阜県関市	むげがわ児童館
13 岐阜県各務原市	中部学院大学 子ども家庭支援センター ラ・ルーラ
14 岐阜県大野町	子育て支援施設 子育てはうす ばすてる
15 岐阜県美濃市	牧谷保育園 ひよこくらぶ
16 岐阜県美濃市	美濃保育園 どんぐりハウス
17 岐阜県海津市	石山保育園 すくすく教室
18 愛知県名古屋市長区	有松学童保育所
19 愛知県名古屋市長区	徳重1丁目あおぞら学童保育クラブ
20 愛知県名古屋市長区	徳重3丁目あおぞら学童保育クラブ

4. 視察から得たパターンの抽出、体系化

視察から分類分けを行い、パターンを抽出して体系化を行った。パターンは大きく分けて 4 つに分類した。(図 2 の大きな文字) まずは建築的に空間がどのように構成されているかを表す”場”、そこで設置されている物にはどういった要素が存在するのかを表す”モノ”、また実際にどのような取り組みや仕掛けが施されているかを表す”活動”、それらの分類が互いに関わり合う中で人がどのような形でどのように場を管理するのかを表す”運営”である。

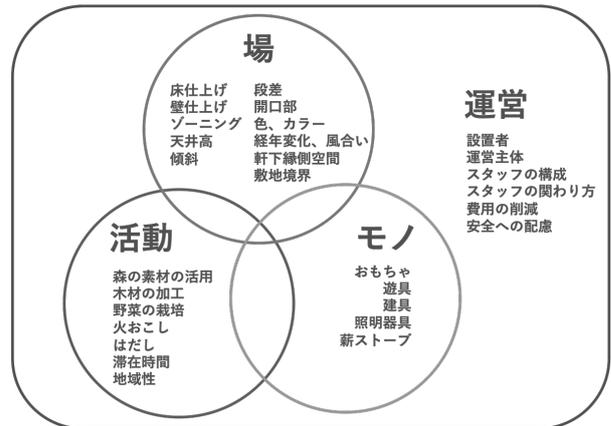


図 2 パターンの分類

これら 4 つの分類を基に計 29 個のパターンシートを作成した。(図 2 の小さい文字) パターンシートは概要と効果、注意点、さらに視察先の利用事例を載せることで活用方法の参考となるようにした。(図 3)

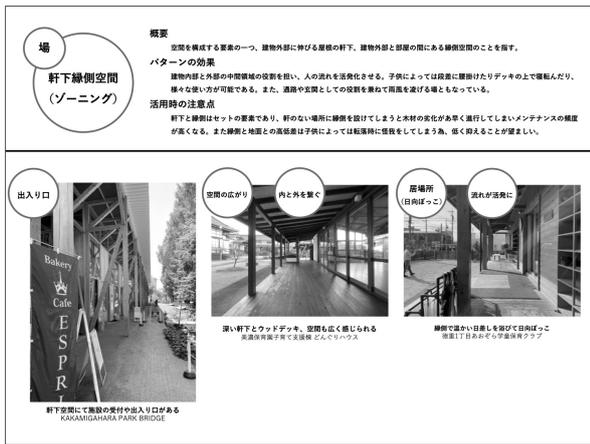


図3 パターンシートの例

5. 既存建物の利活用提案

パターンシートを用いて中津川市の約 17 坪の建物を対象に実践を行った。まず市の中心市街地まちづくりビジョン「つかう中津川」「中津川市子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査報告書」を参考に建物用途を検討した。既存建物の風情や風合いを残し、まちの魅力に触れ合える放課後児童クラブを提案した。



図4 外観パース

「場」の分類から、計画地の限られた空間が少しでも広く感じられるような「軒下縁側空間」の事例にある建物の内外を繋ぎ、人の流れを活発にする効果から庭に面した北面と東面に縁側を設けた。さらに、子供達が歴史ある町の中のことを意識し、地元の方にも身近に感じてほしいとの思いから「敷地境界」の要素も重要だと感じ、新たに抽出しパターンシートを追加し、敷地東面は目線を遮りすぎない塀とした。

「活動」の分類から、四季を感じる仕掛けとして「野菜の栽培」を参考に、野菜を育て収穫し調理して食べる取り組みを計画した。広がりの感じられる一体的な空間がイベントの場として地域の方にも知っていただける機会になると考え、「地域性」を考慮したイベントを行うことは子供達にもまちの魅力を知るきっかけとして有効だと考えた。

「運営」の分類から、「設置者」「運営主体」を参考に様々な感性を刺激するイベントを執り行えるよう運営の自由度を増すため民立民営の放課後児童クラブとした。

以上の計画内容を基に 2025 年 2 月 6 日にプレゼンを行なった。参加者は中津川市役所をはじめ民間事業者 10 名である。中津川市子ども家庭課より「他の学区の子にも使ってほしい、その意味では、長期休暇時は人数を増やすこともあっても良いのではないか」その他にも「未来あるこどものため、歴史ある場を伝えられ、広がりがある提案と感じた」などのコメントをいただいた。



図5 子供達が過ごすイメージ

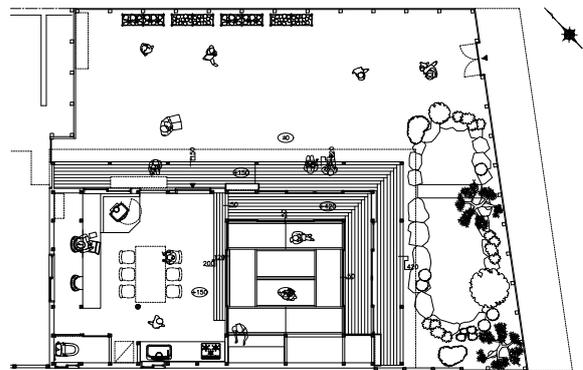


図6 平面計画図

6. 結論

分類の「場」、「モノ」、「活動」からなるパターンシートは設計から活用方法の提案に有効であった。さらに「運営」の分類があることでその実現性を高めたと感じる。

しかし、注意点として今回の提案内容も立地条件を踏まえコンセプトを設定し活用したことから、あくまでも設計者の意図において、パターンシートはアイデアのきっかけとなり、設計を補助するものである。場や人と人の関係性をどう設計するか、その上でパターンシートや様々な資料を読み込み、いろいろなものに触れ蓄積させていくことが重要だと感じる。

子供達は暮らしの中でたくさんの刺激を受けることで感性が刺激され、価値観が形成されていく。そうしたときに、私と同じように木と親しみの持つ場での経験が将来活かされるのではないかと。その際に、本研究で作成したパターンシートによって、より多くの子供達の日常が木と親しみの持つ場が増えることを願う。